

参加者が遵守すべき事項（大会申込時の申合せ事項）

- 参加者が以下の事項に該当する場合は、参加を見合わせる（大会当日に書面で確認を行う）※HPよりダウンロード
 - 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - 同居家族や身内な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - 過去14日以内に入国制限／観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- マスクを持参すること（参加受付時や着替えの時等のスポーツをしていない際や会話時にはマスクを着用する）
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する
- 他の参加者、スタッフ等との距離（できるだけ2m以上）確保する（障害者の誘導や介助を行う場合を除く）
- 大会開催中は大きな声で会話、応援等をしない
- 感染防止のために高体連バレー専門部が決めたその他の措置の遵守、指示に従う
- 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、高体連バレーボール専門部委員長（前女 木暮）に速やかに報告する
- 大会前後のミーティングや3つの密を避け、**必ずマスクを着用する。**

競技・審判上の留意事項

- 群馬県が作成「社会経済活動再開に向けたガイドライン」の「イベント開催制限」にある人数上限・収容率の範囲以内での開催とする
- 試合用コート1日1面あたりのチーム数は**JVAのガイドラインや県高体連の指示のもと決める**
- 遮光のためのカーテンについては原則開放で行うが、やむを得ない場合は役員との応相談とする
- 定期的な換気に加え、空調の活用及び扇風機の併用（熱中症リスクにも備えること）
- 試合球は複数個用意しワンラリーごとにボールを交換し、消毒または雑巾で拭き取りをする。各チーム担当者を決め各ベンチにボールを返す
- 指導者、スタッフ、ベンチの選手はマスクを着用する
- 両チーム、審判との握手は実施しない
- 試合前後の整列、**各コートのエンドライン上で行い、試合後は各コートのアタックライン上で行う**
- 円陣・密状態になったままでの掛け声・大声での発生は禁止とする**
- 練習中の声援、リズムや数を数える等の声は出さない（基本的に声は出さない）**
- ベンチでは離れて座る。ウォームアップエリアでも密に気をつけ、私語は慎む
- 競技中のハイタッチは腕のタッチにとどめる
- 競技中、靴底を手でさわらない

- ネット際などで、相手に向けた状態での発声は控える
- タオル、水ボトル、アイシングバッグなどの共用禁止
- 各ベンチにアルコールを設置し、**必要に応じて**手指消毒を行う
- 審判、補助役員も密集・密接を避けるために、主審1名・副審1名・SC1名・PP1名・LJ4名・としASは配置しない。
- モッパ―ならびにボールリトリバーは両ベンチのメンバーが担当する
- 審判員の笛の管理（不慮の接触を避け、電子ホイッスル等を活用する）
- 試合終了後、主審・副審・補助役員にて消毒を行う。（審判台・ペナルティーカード・**ネット**・記録席・得点板・等）

会場設営・コロナ対策

- 会場入口に人員配置し、入場を許可された者以外は入場できないように管理する
 - 当面の間は「無観客」を基本とするが、**保護者等の観戦に関しては、感染状況を踏まえて判断する**
 - 体育館の壁際通路など、観戦場所が狭いスペースに限られる場合は観客の入場許可を見合わせる
 - 試合前後の一斉移動をコントロールする
 - 内履きが必要な場合もスリッパの貸与は控えて、外履きを持ち込むための袋を持参するよう促す
 - 飲食については、原則行わない、行う場合は指定された場所で周囲の人との距離を空けて対面を避け、**黙食で行う**
 - 定期的（1時間ごと）に会場のアルコール消毒を行う（更衣室、トイレ、役員控え室、階段等）ドアノブ、蛇口、水洗トイレレバー、窓カギ、電気スイッチ、応援席、手すりなど
 - トイレの蓋閉めて汚物を流すよう表示する
 - トイレにポンプ型液体石けんの設置、「手洗いは30秒以上」等の掲示
 - 更衣室は広さにゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける（障害者の介助を行う場合は除く）ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等措置を講じる
 - ごみは持ち帰る
 - チェックリスト
- 参加した選手の体調チェックリストを各チームで大会後1ヶ月間保管する。

※ 人員配置や張り紙、石けん等は高体連バレーボール専門部で準備します。**アルコール消毒液は高体連でも準備しますが、各チームでも用意してください。**